

経営指針を実践し続けた 15年

～子どもたちの未来のために…ソノツヅキ～

川上塗装工業株式会社

代表取締役 川上 秀郎 氏

専務取締役 川上 冴華 氏



活き生き企業訪問記

「経営指針を実践し続けた十五年」

子どもたちの未来のために…ソノツツキ

川上塗装工業株式会社

代表取締役 **川上 秀郎 氏**

専務取締役 **川上 冴華 氏**



一枚一枚、薄紙を重ねるように

屋根板金を得意としてきた川上氏は、今から十五年前にたった一人で脚立とトラック一台、パソコン一台で塗装業

をスタートをしました。二〇

〇五年のことでした。最初は大手の塗装会社の下請仕事を中心でしたが、持ち前の明るさとエネルギーで信頼を集め徐々に事業を拡大、社員を迎えるまでになりました。

しかしながら売り上げはどんどん上がりましたが、利益が残らない。どうしてだろうと思ひ悩みながらいたところに、周囲からのお誘いがあり二〇〇九年、岩手同友会の第五期経営指針を創る会を夫婦で受講することになりました。

当時は仕事の依頼も順調に増えていきましたので現場管理でも、社員への福利厚生にも大盤振る舞いすることもあり、だいたい支出の多い環境下でもありました。経営指針を創る会では、何度も「何のために経営するのか」という問

いかけに、真剣に答えますが、なぜか皆さんの反応はあまり芳しくはありませんでした。

経営指針に真剣に向き合って経営の軸ができた

川上氏は当時を振り返って話します。「今だから言えますが、その頃は経営について勉強する機会が少なく、勢いでやっていったように思います。『何のために』を真剣に考えて、未来を創造していくことが、本当に大切なことだと思えます。」

指針を創る会では「考える」と「経営の軸」のあり方を学ぶことができました。そうした経緯の中で社員も何人かがやめてしまうことにはありませんでしたが、残ってくれた三名と一緒に現状を理解することからはじめ、一枚一枚、薄紙を重ねる努力を続け、その後も幸せな未来を創るためにどうすればいいのか。繰り返し繰り返し繰り返し考え、ようやく自分たちが納得のいく経営理念ができたのは、受講後六年が経過してからでした。この十五年の間には自社ビルの購入、新たな部門の創設、新入社員の入社など大きな成長を遂げてきました。



先が見えず悩み続けた日々

それでも、自分たちが想い描けるような展望が見えず悩んだ日々がありました。「先のない未来をみずすなら、この仕事をやめたほうがいいのではないか」と思ったこともありました。

その一つが、二年間かかったこれからの事業計画の策定時でした。この時が一番苦しかったと川上氏は話します。「毎日、毎日、未来をつくる子どもたちを幸せにするために企業として何ができるのか。どうすればいいのか。ずっと考え続けました。でもそこにはなかなか辿りつけていませんでした。やりたいことが見えず本当に苦しかったです。」

る壁でした。

この子たちに幸せな未来を

展望が見えるきつかけになったのは子どもたちでした。ある日、学童保育に子どもを迎えに行きました。すると娘さんは、汗をかきながら顔を真っ赤にして出てきました。気になり部屋の中に入ると、室温が高いのがすぐにわかりました。エアコンはありませんが、設定温度が定められていることと築年数が経っているため、建物の構造上の問題もあることに気づきました。子どもたちや先生方はここで毎日を過ごしていることを知り「どうにかしてあげたい」と川上氏は思います。

父母会長をしていたこともあり、子どもたちと接する機会が多く、時には自分の名前を呼んで近寄ってくれる子どももいます。また障がいのある子どもさんがいても、子どもたちはまったく違和感なく仲間として一緒に遊んでいます。「壁をつくっているのは自分たちではないのか。」そんな子どもたちから教えられることもたくさんあります。子どもたちの笑顔は、まわりを笑顔にし、パワーをもらえます。

「何か恩返しができないか」と思うようになりました。

真逆の考えから 見えてきた道筋

そこで取り組み始めたのが、建物に塗布するだけで遮熱と断熱をする新素材塗料、ガイナという塗料を使った塗装です。部屋の中からの視点ではなく、外で遮熱する真逆の考え方でした。この素材は、入手が難しく手間のかかる特殊な施工方法であることから、東北ではあまり目向けられませんが、これを機に東北全体を視野に入れた、第一次特約店にもなりま



した。

無落雪屋根もその真逆な考え方の一つです。東北は雪が多く屋根に雪が積もります。今までの塗装の常識である「屋根から雪を落とす」という考え方から、「雪が落ちない無落雪屋根」にすることを提案し始めました。雪の多い東北では考えられないことです。こうして少しずつ点と点がつながり道筋が見えてきました。川上氏は話します。「考えることをやめたら、気づきもなかったと思います。経営者は考えること、そして謙虚に学び続けることが仕事だと思っています。」

次世代に、ツナギ、 未来へつなぐために

川上塗装工業は現在、新たな事業に向けて動き出しています。二年間考え続けた事業計画が開きました。新事業は自社ビルの一階を改装しオープンします。「衣食住の省エネ商品や持続可能な考え方を発信する場」にできればと考えています。塗装業の本拠として、そして起業家が集う場として、更に一般の方々が集い発信する場としての機能を整えました。その空間に入ると、喫茶店のような雰囲気の中、ポップな曲が流れています。暖かい色合いの照明が淡く空間を照らし、窓越しには瑞々しい木々の緑が、より空間の居心地を引き出しています。

インタビューには、専務の川上冨華氏も同席戴きました。川上専務は「例えばある方が料理教室を開くことで、食材を提供してくれた企業にもメリットがありますし、来ていただいたお客様にも楽しんでいただけます。更に集客にもつながります。そして何よりもこのスタジオのキッチンを使ってもらうことで我が社のシヨールームにもなります。」

二人三脚で目指す想い

現在進めようとしている新事業の名前は「サステイナスタジオモリオカソノツツキ」です。「ソノツツキ」には、「見て聞いて知り、家に持ち帰り続きは自分たちで決めてほしい」そんな意味が込められており、自分たちの人生の夢が込められています。

「女性の中には、自分自身を認めて欲しい人、一步を踏み出せないでいる人がたくさんいます。またLGBTQやトランスジェンダーで悩んでいる人など、私たちの知らないところで苦しんでいる人たちも沢山います。この場所を通じて、そんな皆さんが『自己実現の場』として、次の世代につないでいってほしい。」そんな想いが込められています。

夢に描いた経営理念の 実現へ向けて

こうした取り組みの大きなエネルギーの一つに、川上社長が昨年十一月に参加した岩手同友会の第六回欧州視察もありました。持続可能な社会への取り組みを実際に体感した川上氏は、その確信を行動

につなげました。

児童保育所の屋根を断熱性能の極めて優れた新塗料ガイナで塗り、子どもたちの快適な環境を守ろうとする取り組み、ホワイトルーフプロジェクトです。ボランティアの方々と無料で塗装し、一〇〇〇人を笑顔にしようとするプロジェクトです。実際にボランティアを募集したところ、一般の有志の方の他、地元議会の議員さん、そして今は無職ですが意欲を持って頑張ろうとする若者など、様々な方が参加し、実現することができました。

川上夫妻の夢に描いた経営理念は創業から十五年が経過した今、実現へ向けて着々と動き出しています。

〈経営理念〉

- 一 私たちは、お客様の宝物を守ると共に、常に新しいことに挑戦します。
- 一 私たちは、暮らし続けたい”と思える街を創造し、未来に繋がります。
- 一 私たちは、社員と共に次世代にとって憧れになる職業にします。

委員会・部会通信

ダイバーシティ委員会

「多様性」を考える 新しい委員会へ

六月二十四日(水)同友会事務局三F会議室に於いて、ダイバーシティ委員会主催「SDGs学習会」が開催されました。当日は、企業の社員も含め十四名参加。熱気の中、それぞれ課題解決のためじっくり学ぶ学習会となりました。

はじめに石頭ダイバーシティ委員長(榎幸呼来Japan代表取締役)から「これ



りへ向けた、社会課題解決の視点から学びます。

企業とお客様のニーズに合わせる視点を飛び越えて、社会が求める課題に添えていく企業の姿に焦点を当て、社会が直面している課題をSDGsの視点を活用しながらどう解決していくかを考えるものです。また世界が直面している課題にどのように寄与できるかを学ぶことができるものです。」との説明から始まりました。

その後チームでの実践に入りました。今回参加した社員の方々からは「SDGsという事は聞いていたが、その本質がよくわからなかったのですが、今回この体験を通して、自社の新しい仕事をつくるということを考えることができました。」「社員全員で参加しましたが、共通の課題をじっくり話し合える機会ができました。」「四時間は長いなあと思いつながら参加しましたが、実際全く感じる事なく、むしろもっと深めたいと思いました。」

自社の課題と次のやるべき事が見えた!

その後、四つのグループに分かれ、ファシリテーターとして岩手同友会事務局長の菊田哲氏より今回の学習について説明がありました。今回のSDGs学習会はこれまでの基本的なことから一歩先を見て、企業での新たな仕事づく

想が寄せられ、帰りは皆さん笑顔と達成感の表情でした。

ダイバーシティ委員会はこれから、SDGs学習会、また企業を訪問や制度の学習会などを開催し学んでいきます。ぜひ、ご参加をお待ちしております。

女性部

七月八日プラザおでつてを会場に女性部七月ツイイチ144大学が行われました。

新型コロナウイルス感染症防止のため、三月から活動を自粛していたため約四ヶ月ぶりの再会ということもあり、webでの参加を含め三十四名が集まりました。また、当日は全員がマスク着用と座席の間隔を空けるなど感染防止対策を取りながら行われました。

伝えたい人に、すばやく、正しく、魅力的に!

今月は、合同会社home sick design代表清水真介氏から「売り上げ・集約UPにつなげよう!ちらしデザイン入門」をテーマに話しいただきました。

清水氏は、地元の大学で視



覚伝達デザインを学び大学院を修了後、現在の会社を立ち上げました。様々なデザインやプロジェクトを手がけ、岩手ADC賞グランプリ等数多く受賞されています。アートディレクター、クリエイティブディレクターとして活躍されてきた清水氏は、デザインとは「伝えたい人に、すばやく、正しく、魅力的に」情報を伝える視覚的な技術です。「知らない人に情報を届けるのか。」「知っている人に届けるのか。」「それによって内容が異なってきました。知らない人なら周囲のデザインに埋もれないように。知っている人に届けるなら見る人に合わせたい伝え方に。そして興味のある人には伝えたいジャンルを使い。興味のない人なら目を向けてもらう仕掛けをする。チラシにはたくさん種類があります。大事なことは何のために作るのか。まずは目的

を設定することです。」と話す清水氏。そしてチラシを見ながらレイアウトや文字の大きさなどのアドバースとラフスケッチの書き方を学んだ後、実際に参加者全員でチラシの作成をしました。参加者からは、「たいへん勉強になった。今日学んだことを参考にチラシを作ってみたい。また機会があったら参加したい。」など遠方から足を運んで参加した方も多く、企業情報の発信の一つとしてチラシの重要性を感じたツキイチ144大学となりました。

エネルギーシフト研究会

**岩手同友会と
株高田自動車学校が
最高賞ダブル受賞！
〜岩手県でできることから
ECOアクション〜**

七月十七日(金)盛岡市志家町のサンセール盛岡で、今年度の「できることからECOアクション！」(温暖化防止いわて県民会議主催)表彰式が開催されました。六月に開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染の広がりで、一ヶ月半遅れでの開催となりました。

ました。

この事業は省エネなど優れた温暖化対策に取り組むことを目的にしており、毎年開催されてきましたが、今年度の受賞者として、岩手同友会と(株)高田自動車学校が県内事業者の模範となる最高賞のECOアクション賞をダブル受賞。また会長特別賞として前沢自動車学校(代表取締役菅原秀子氏)が受賞しました。受賞六事業所中、三事業所が同友会所属の受賞となり、エネルギーシフト(ヴェンデ)研究会のこれまでの六年の取り組みが大きく評価されたことになりました。

岩手同友会では二〇一四年に会員でエネルギーシフト研究会を立ち上げ、その後六年続けて欧州視察を重ねながら地域でのエネルギーシフト(ヴェンデ)の実践に取り組んで来ました。なかでものべ八十五名もの経営者と社員が現地を訪れ先進事例を学び体感し、持ち帰ったその感動を実際の企業の新事業として取り組み、地域実践のモデルにまでつくりあげてきたことが、大きく評価されました。同時にエコアクション賞を受賞した(株)高田自動車学校(取締役会長 田村満氏)は、

東日本大震災で壊れた、老朽化した平泉ドライビングスクール(校舎)の建て替え時に、ドイツで見た建築物の熱を逃さない断熱構造を実現しようとして、県内でもエネルギーシフト(ヴェンデ)を建築の現物見本として、視察や見学が止まらないほどの性能を持った木造校舎を実現しました。

なかでも冬場は貯めた熱を建物の外に逃がさない仕組み、夏は窓の外に遮光シャッターを設置し室内の温度が上昇しないように、様々な工夫がされています。また温度管理と同時にCO₂コントロールも行うことで、教習に参加した生徒が眠くなりにくい空間を実現しており、更に年間二百万円以上にもおよびエネルギーコストの削減にまで繋がっており、その実践が地域のモデルになると評価されました。

受賞は地元中小企業への期待の現れ

記念の講演に立った岩手同友会エネルギーシフト研究会会長(信幸プロテック(株)取締役会長)の村松幸雄氏は、「つい最近北極でも三十八度を超える気温になったと聞き

ます。地球全体が気候変動の大きな影響を受け始めており、私たちの孫子の時代にどのようなこのバトンを引き継ぐべきか、私たち自身がどのように臨むべきか、その岐路に立っています。これまで欧州視察を続けてきましたが、私たち企業に問われるのは、それだけの実践をしたかです。小・省・生・商の四つのエネ

ルギーへの取り組みの大切さをこれまで声を大にして発信して来ましたが、まだまだまったく足りないと思います。岩手県では水素をこれからの大きな期待できるクリーンエネルギーの基軸として考え、研究を続けてきました。私もその委員の一人ですが、一切CO₂を出さないそのような水しか生まないエネルギーも、今後間違いなく中心に来る日は遠くありません。今回の受賞はその意味でも、中小企業への期待の大きさでもあると考えています。まだまだ道半ば、この受賞は励みに多くの実践を生み出していきたいと思っています。」とこれからの意気込みを話しました。

また田村氏は、「この校舎は実は、建築を学ぶ学生にも学ぶ場としても使ってほしいと思っています。現在全国で

ヒートショックで亡くなる方が年間で一万七千人もおおいでになります。世界中で最も寒い家に住んでいる人たちが、北東北の家に住む人々と言われる中で、断熱性能の良い建築を学ぶ機会を学生に実際につくることで、一人でも多くのお年を召した方々の命を救うことができるかもしれない。そうした役割も担えるのではないかとも思っています。将来的にはここが拠点になって、地域の熱エネルギーを地域で循環させることができるモデルになったらいいなと、思い描いています」

コロナ禍の中で目線が下に向きがちなか、これまで積み重ねてきたエネルギーシフト研究会の実践がいよいよ注目されてきています。



岩手同友会の三十年

実践！同友会と私

歴史を支えてきた先達のリレートーク

岩手同友会は来年、創立から三十年を迎えます。この間同友会を牽引し、企業経営を同友会運動を両輪に実践を続けてきた先輩方をリレーで紹介します。

第三回は村松幸雄氏が同

友会に入会し、たくさんの方と学びの中で、「入口を社員に示し、出口でニコニコ待つ」という社員が育つ環境をつくり、社員一人ひとりが十年ビジョンを持ちながら成長し、今では地域に無くてはならない企業になっています。

■未来に責任を持つ同友会理念の継承を

信幸プロテック(株) 取締役会長 村松幸雄氏

「設備の総合病院」を掲げる信幸プロテック(株)取締役会長 村松幸雄氏は創業してから四十六年になりますが、創業から十

一年というときに、突然尿路結石になってしまい入院することになり、社員がゼロになってしまいました。「このときに初めて一人では経営できないということがわかった」と話します。そこで始めたのが、その後入社した四人との勉強会でした。それが現在の社員一人ひとりの人生設計まで描く社員教育につながっています。

ました。社員の営業の力つてすごいと思いましたが」と村松氏。

その背景には社員それぞれが何をめざしたいのか。一生を通してどのような生き方をしたいのか、社員全員が未来の人生設計を描く社風があります。村松氏は話します。

「同友会の歴史の中で継承されてきた理念を、実はわれわれはずっと実践してきました。特に大切なのが、経営者が経営者でなければ学べない学びです。経営者は入口を社員に示して出口でニコニコ待つ。入口を示すためには科学的、社会的、人間的根拠がなければなりません。経営者が掲げ手柄は社員。それがニコニコ成長を見守るという」と、同友会での学びを翻訳する村松氏。さらに同友会が果たすべき未来への役割をエネルギーシフトに表しています。

「地球温暖化を止めなければなりません。故赤石義博氏が話していた、今の私たちはブリザードの氷河の中を砕氷船に乗って必死にクルーと進



信幸プロテック(株)の社員の皆さん

んでいるようなもの。行き着いた先が取り返しつかない死の海だった。というのが現実になっています。五十年先の孫子の代に、『あの時何をやっていったんだ』と思われるために、私たち企業家一人ひとりの経営哲学が今問われているのではないのでしょうか。そのために社員と何を話し、何を未来にめざしていくのか。同友会の役割と責任は大きいと思います」と村松氏は語ります。



信幸プロテック(株) 取締役会長 村松幸雄氏

同友会の三つの目的

同友会は、ひろく会員の経営者同士が交流して企業の自主的な経営体質をつくることを目指します。

同友会は、中小企業家が自主的に経営者として相互に資質を高め、経営能力を身につけることをめざします。

同友会は、経営者同士の交流を通じて、経営者としての能力を高め、経営体質をつくることをめざします。

シリーズコラム⑳ ドイツからの風

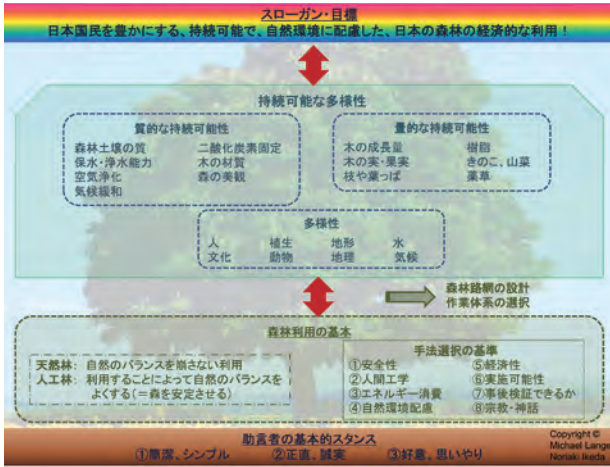


池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

岩手でも「森林業」のモデルを!

二十数年前、私は岩手大学の人文社会科学部でドイツ文学をかじったあと、ドイツのフライブルク大学で「森林学」を学びました。森林官(フォレストラー)を養成するカリキュラムです。経営学、政治学、法律、歴史、地質、土壌、



地理学、気象学、化学、生物、生態学、狩猟学、樹木生理学、造林学、樹木計測、統計学、木材利用学、人間作業工学、木材工学、森林土木、環境教育、ランドスケープ学、自然倫理...と幅広い内容で、この「多様性」に魅せられ、森林の世界に飛び込みました。五年半みっちり実学重視のプログラム。当時は講義とセミ

ナールは全て一週間から二週間のブロック(集中講義)形式で、ハードでしたがフィールド学習が多く楽しく学べました。そこで私は、複合的に物事を捉え、多面的にバランスの取れたソリューションを考え実践するトレーニングを受けました。私は森林官にはなりませんでしたが(私の時代は森林官のポストの空きがほ

んどなくて、九九%の同級生は森林官でない様々な仕事についています)、森林学部での学びは私の大きな財産で、現在の活動のベースになっています。いろんな分野の専門家と専門用語で話せることも「多様性」ある森林学を学んだことの大きな利点です。

ドイツの森林官(フォレストラー)は、ドイツの子供達の憧れの職業の一つでもあります。森林官のメインの仕事は森を「クリエイト」すること。その中心的な作業は「選木」です。切る木を選ぶ作業ですが、この作業で将来の森の方向づけ、価値創出をしていきます。選木作業では、森林官の頭のCPUは、樹木生理、生態バランス、自然保護、防災、作業手法、木材産業の需要、売値、作業コスト、など多面的な知識と経験が複合的に高速でフル稼働し絡み合

い、同じものは一つとない各現場で、一つ一つのソリューションを導き出していきます。今から十年前、独塊の森林官と日本の森林再生プラン実践事業を支援しました。最初に来日する前に、助産者のコンセプト/スタンスとして森林官のミヒヤエル・ランゲ氏と一緒に作成したのが添付の図「持続可能な多様性」です。

日本の「林業」の経済性が低いという問題を、新しい作業システムを欧州から学び取り入れることで、解決することが依頼者側の主眼でした。それに対して、私たち助産者側は、総合的・複合的な観点で、頑固に「森林業」のコンサルティングにしました。当時、動揺も反発もありましたが、私たちは、コンセプトを貫き通しました。当時一緒に苦勞し努力した人たちは、信頼できる掛け替えのない友人として、今でも交流が続いています。「森林業」のモデルも、ここ十年でいくつか生まれ、成長しています。私の第三の故郷でもある岩手でも是非、モデルを作りたいです。

●池田憲昭さんへのご連絡・ご質問はメールでどうぞ。 e-mail ikeda@arch-joint-vision.com

ドイツ学びの旅 ~視察セミナー

森林業 木の建築 BIO SLOW 食 都市農業 自然医療
文化 地域創生 企業経営 グリーンインフラ

www.arch-joint-vision.com



新商品紹介

(株)紫波フルーツパーク(竹原純悦専務取締役)は、新商品として限定醸造の「紫波モンドブリエニ〇一九」と「天使の微笑み」を発売いたしました。

「紫波モンドブリエ」は淡い黄色の色調で、オレンジや黄桃のような香りが特徴の白ワイン。口当たりはふくよかで、優しい甘みの中にも北国独特の綺麗な酸味が溶け込み、すっきり爽やかな余韻が感じられます。「天使のほほえみ」は、明るいルビー色でいちごのような華やかな香りと豊かな果樹味がある赤ワイン。優しい甘みの中にも、北国特有の岩手の爽やか酸味で長く続く綺麗な余韻が特徴です。価格は、紫波モンドブリエは二、五三〇円(税込)、天使の微笑みは一、四三〇円(税込)です。お問合せは(株)紫波フルーツパークまで。



■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。
 ■活用したい。www.iwate.doyu.jp
 ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。
 ■本紙掲載事業への出入返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

物を大切にし環境にやさしくありたい 使わない人から使いたい人へ
 総合リユースショップ **Doki-Doki 2nd STREET**

(株)トータル・リユース
 代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
 ise yukiro

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
 TEL: 0193-21-2126 FAX: 0193-21-2127
 携帯 090-8780-3296
 E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

**オリジナルラベル
 ワインを作成します**

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

自園自醸ワイン紫波 社名ロゴ 写真OK 包装、のし無料 12本以上 作成料無料
 岩手県紫波町産ぶどう100%

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
 自園自醸ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク
 醸造元 〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

TUENO

包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は
 「適材適包」でお客様をサポート致します。

「PACKAGING ENGINEERING」

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

株式会社東北ウエノ
 〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL:0191-21-4531
 〒021-0893 テクニカルセンター：一関市地主町7-15 TEL:0191-32-5020

輸送包装便覧.com <https://www.transport-package.com/>

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで
 真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 植物 BDFの製造・販売 紫波町
 食用油 肥料化 光合膜 CO2 エネルギー 燃料

紫波環境株式会社
 岩手県紫波郡紫波町南日語字小路口70-1
 TEL: 019-672-2656 FAX: 019-601-2686
<http://shiwakankyo.com/>

し尿・浄化槽汚泥収集運搬

注文すると「明日」来る。
 オフィス・事務用品通販なら「アスクル」で

日用品 消耗品 文房具 飲料 工具

外出不せにFAX、Webにてご注文できます！
 ご登録・お問い合わせは平金商店へお待ちしております。

<https://www.askul.co.jp/ag/hirakin/>

ASKUL AGENT 株式会社 平金商店
 アスクルエージェント TEL: 019-624-2121

Southern Iwate DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
 Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
 RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
 HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
<http://www.si-dsg.com/mobile>

安心して喜らせる地域づくり
 共に繁栄する仲間づくり
 社員の生きがいづくり

各種配電盤、制御盤、計装盤の開発、設計、製作、施工
 特殊肥料、いちご閉鎖型高設栽培システムの製造・販売

東日本機電開発株式会社
 〒020-0401 盛岡市手代森5-19-10
 TEL: 019-675-2277 FAX: 019-675-2288

人と自然にやさしい環境を創り
 地域型企業として貢献します。

水まわりのリフォーム キッチン バス・トイレ 浴槽
 住宅設備のアップグレードサービス エコキュート ボイラー PFオーバー

浄化槽 安心安全！ 調査・施工 メンテナンス 管理

岩手日化サービス株式会社
 盛岡市黒川2-2地割5-6番地
 電話 019-696-5611

DOYU I W A T E
 同友いわて
 2020 Vol.141

発行/岩手県中小企業家同友会
 広報委員会

2020年8月1日発行

〒0200878 岩手県盛岡市肴町4-15 カガヤ肴町ビル3F
 TEL: 019-626-4477 FAX: 019-626-1644
 Mail: info@iwate.doyu.jp